



TITLE:

ビュツヘルの經濟階段説に就て

AUTHOR(S):

本庄, 榮治郎

CITATION:

本庄, 榮治郎. ビュツヘルの經濟階段説に就て. 經濟論叢 1919, 8(6): 840-846

ISSUE DATE:

1919-06-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127528>

RIGHT:

部學法學大國帝都京

叢論濟經

號六第 卷八第

行發日一月六年八正大

論 說

資本税の課徴方法……………

法學博士

神戸 正雄

公羊家の理想とする大同の社會……………

法學士

小島 祐馬

割地の發生并に發達についての考察……………

法學博士

牧野信之助

企業の經濟的及び道德的性質……………

法學博士

田島 錦治

經濟循環期論(四完)……………

法學博士

財部 靜治

植民地領有の目的(三完)……………

法學博士

山本美越乃

米國のI、W、W運動の研究(三)……………

文學士

米田庄太郎

紙幣の減價に就いて(三完)……………

文學士

高田 保馬

時事問題

收入豫算の見積を論ず(二)……………

法學博士

小川郷太郎

少年勞働及徹夜業の禁止……………

法學博士

戸田 海市

雜 錄

英國の勞働不安……………

法學博士

河田 嗣郎

ビユツヘルの經濟階段說に就いて……………

法學士

本庄榮治郎

ビユツヘルの經濟階段説 に就て

本庄榮治郎

Karl Bücher はその著 *Die Entstehung der Volkswirtschaft* 1893 に於て論じて曰く「國民經濟は過去數千年來發達の結果にして近世的國家の起るに及んで始めて成立したるものなり。その以前にありては人類は長時期の間全く交換を重要視せず或は生産者と消費者との直接交換によりてその經濟を營みしもの也。今かくの如き歴史的發展の跡を究めんとするに當りては、その觀察點は宜しく之を過去現在の經濟現象の本質を捕捉し得へき所に求めざるべからず。而して之が爲には財の生産消費の關係、換言すれば貨物が生産者より消費者に至るまでに經過すべき道程の長短によりて觀察することを最も適當とすへし。この觀察點に基きて論ずるときは一般經濟の發達、殊に中歐西歐の國民に於ける經濟の發達は、封鎖的家内經濟、都市經濟及び國

民經濟の三階段に分つことを得べきもの也」と。
 Bücher は右三時代の外尙經濟發達以前の狀態として個人的食料探索時代 (Die Stufe der individuellen Nahrungssuche) なるものを説けり。こは現今知り得べき自然人民の最も幼稚なる生活狀態を意味するものにあらずして、その生活狀態の中、最も原始的生活方法によりて生したるものと考へらるゝ諸般の特徴を蒐集し、これらの特徴より推究して今日の自然人よりも更に一層溯れる原始人類の生活狀態を思想上構成せるものに外ならざる也。而して Bücher の説く所によれば、この時代に於ては各人は自己の肉體以外に何等の武器道具を有せず、或種の獸類と同じく同類と共に一定の地域内を彷徨し、手と共に足をも巧妙に使用して、物を捕へ樹木に登攀し、男子も女子も總て手を以て捕へ、又は爪を以て地中より掘出し得るもの、即ち小動物、草根樹實等を其儘に食料とせるものにして、彼等は食料獲得のために或は大小の群をなし或は分散することあるも、未だ一の社會を作るには

至らず、唯個人的に食料を探索せる生活のみをなせるに過ぎざる也。而して此の如きは原始經濟狀態といはんよりは、寧ろ原始非經濟狀態ともいふべく、未だ經濟なるものゝ發生せざりし時代なり。蓋この時代に於て人類はもとより個々の經濟的行爲を營めりと雖、その行爲たるや未だ一定の秩序計畫によりて支配せられたるものに非るか故に、未だ『經濟』を形成するに至らざりしを以て也。これに次いて發展したる最初の經濟階級は、即ち封鎖的家内經濟なり。故に Bücher の經濟發達の階級として通常考へらるゝ所のものは、この家内經濟以下の三階段なり。今この三階段の特徴を簡単に説明すれば左の如し。

第一期。封鎖的家内經濟の階段 (Die Stufe der geschlossenen Hauswirtschaft) この時代に於ては、自家に於て需要する所のものは主として之を自家に就て生産するものにして、生産と消費とは殆んど一家内に於て行はれ、敢て他家他門の經濟と接觸する所なきを常とす。されは

2) S. 9. ff. 27. 30. 38.

3) 米田庄太郎氏、原始社會における交換有無問題、國民經濟雜誌、十四卷

Bücher はこの時代を以て純自給生産若くは交換なき經濟 (reine Eigenproduktion, tauschlose Wirtschaft) とするがその意は交換絶無の時代なることを示すものにあらすして、たま／＼交換の現象存するも未だ經濟生活上の一要素たる重要な地位を占るに至らず、僅かに偶然的附加的現象たるに過ぎざることをいふもの也。

第二期。都市經濟の階段 (Die Stufe der Stadtwirtschaft) この時代に於ては財は生産經濟より直接に消費經濟に移るものにして詳言すれば自己の需要せんとする所のものを他人に生産せしめ、生産者消費者の間に直接交換をなすもの也。故に應需生産にして直接交換時代なり (Kundenproduktion, direkte Austausch) 之を都市經濟といふは、中世の後半、都市發達するに及んでこの現象盛に行はれたるを以て也。

第三期。國民經濟の階段 (Die Stufe der Volkswirtschaft) この時代に於ては貨物か生産せられて消費せらるる迄には多くの經濟主體を通過せざる可らざるを常とす。即ち財の生産は

消費者の注文に基くものにあらす、一般市場における需要を見込み商品として生産するものにして、消費者も生産者より直接にその所要品を求めずして、市場に提供せられたる貨物をとりて之を消費する也。故に貨物か生産者より消費者の手に移る迄には幾多の仲介者を経るものにして所謂財の循環なる現象を生ず。故にこの時代は商品生産にして又貨物循環の時代也 (Warenproduktion, Stufe des Güterumlaufes) 而してこれを國民經濟といふ所以は、近世的國家成立の後においてこの現象が主として行はるゝに至りしを以て也。

以上述ふる所の家内經濟、都市經濟、國民經濟の三階段説は一般に認めらるゝ所にして(註)又ビュツヘルの説として承認せらるゝ所のものなるが近時ブレンゲ教授の研究によれば既にシェンベルヒは一八六七七年五月 Zur wirtschaftlichen Bedeutung des deutschen Zunftwesens im Mittelalter と題する論文を草し之を Jahrbücher für Nationalökonomie und Statistik, Bd. 9, に掲

けたるが、その所説中ビュツヘルの三階段説と全く相同しきものあり、故に右の三階段説はビュツヘルの獨創に出づるものにあらすして、シエンペルヒの稱ふる所なりと主張せらるゝに至れり。⁴⁾

(註) Bücher の説に對しては Eduard Meyer, Oncken Below, Pesch, Schmoller 諸氏の論難ありと雖、その多くは經濟發達階段説の性質を理會せざるに因るか如く未だ Bücher の説を覆するに足らず。又 Ely は Bücher の標準に據りながら國民經濟の次に世界經濟を加へたるか如きは、全く誤謬の修正といふの外なし。これ等の反對説乃至修正説の詳細は他日稿を改めて説く所あらんとす。

今 Plenge 教授の示す所によれば「シエンペルヒは國民經濟が全然文化發達の結果なることを認め、且歴史的狀態の比較を以て一の重要な觀察方法なりとし、かくの如き狀態即ち經濟事情の各時代における全體の關係 (Zustände, d. h. die gleichzeitige Zusammenordnung der Wirtschaftsverhältnisse) を、先づ一方に於ては一の統一ある全體として觀察し、他方に於てはかかる狀態は絶えず變遷し發達するものとして觀察せるのみならず、かくの如き狀態を以て一の模型的なもの、即ち場合にによりては千差萬別の形を有するも、尙根本の點に於ては共通の關係の存することを認めたり。即ちシエンペルヒの説に於ては所謂階段説或は狀態説の研究方法上のすへての特徴を説き、而もビュツヘルより一層明瞭に論述したり、たゞ研究方法上ビュツヘルに存してシエンペルヒに缺くる所のものは、唯外形の標準即ち「販路の長さ」(Länge des Absatzwegs) を以て區別の標準となすの點にあり。然れどもシエンペルヒも亦「消費者又は商人に對する生産物の販路は、同時に完結せる生産の目的にして、又新生産の起因なり。この販路は生産の循環を生ぜしむる動因をなすものなり」といへるを以て見ればビュツヘルによりて大成せられたる思想の萌芽の存する所を知るに足るべし」云。

Plenge 教授はこれより進みてシエンペルヒの論文につき家内經濟、都市經濟、國民經濟の各項目を分ち、之を説明すべき文章を隨所より

4) Plenge, Wirtschaftstufen und Wirtschaftsentwicklung, (Annalen für social Politik und Gesetzgebung. Bd. 4. Heft. 5 und 6)

神戸博士、ビュツヒアーの經濟發達階段説は其獨創に非ず、經濟論叢三卷三號。

抽出排列し、且最後に二三の現象につき各經濟狀態の比較をも行ひ、全くシエンベルヒの論文の原形を變し、殊更にビュツヘルの階段說と同様の形式となし以て兩說の類似を明かにせんことを努めたり。今直接にシエンベルヒ氏の論文に就き其說を述へんに彼はビュツヘルと同しく Hauswirtschaft, Stadtwirtschaft, Volkswirtschaft なる言葉を用ひ且これ等の經濟狀態が漸次に發達するものなることを認め古代に於ては家内經濟中世に於ては都市經濟行はれ近時國民經濟の時代となりしことを説きたり。たゞその觀察の標準は主として生産勞力若くは生産的職業の上に存するものゝ如し。即ちあらゆる經濟的勞力はその最も一般的なる分類に於ては、生産の三樣式に分つことを得るものにして、原料品を獲得すること、原料粗製品に加工し精製品となすこと、及び原料品精製品を生産者より消費者の手に移すことこれ也。この三者はやかて一國民の主要なる職業たる原始産業、工業、商業の三者をあらはすものといふへく決して何れの時

代にも存するものにあらすして、國民經濟の發達するに及んで最も明かに行はるゝに至りしもの也。古代に於ては家計の外にかくの如き經濟組織なく、職業の分立なく、たゞ家内經濟の存するありてあらゆる經濟關係の基礎を形成せしものなり。故に當時に於てはこれ等三者の生産的行爲は何れも一の包容的な家内經濟の内部に於て行はれたるに過ぎず、かの中世の初期獨逸における莊園の如きも亦種々の關係に於て、この家内經濟に類し、これらの行爲は何れもその莊園經濟の内部に於て行はれしものなり。然るに都市の發達と共にこの家内經濟の如き生産共同形式は次第に解消して、商業先づ分離獨立し、原始産業と工業とはその始めには地方的に分立して、前者は田舎に、後者は都會に行はるるに至りしものなるが、後には更に一層の發達を遂げ職業上工業と原始産業及土地所有との關係は次第に分離獨立し、手工業者中には組合を組織するものあるに至れり。中世都市經濟の時代に於ては一の統一ある綜合經濟の存せしもの

にあらずして、各地方に個々の經濟が存立し、各々獨立せる組織團體をなせしものなり。而して當時の都市は寧ろ道義的團體として住民全體の精神的物質的幸福を増進することに努むべきものと考へられ、かの市場警察、組合制度等における各種の政策は、その生産者に對すると消費者に對すると又都市住民に對すると外來人に對するとかゝわらず、その精神は何れも如上の趣意よりして財の生産分配消費に干渉したるものに外ならず。當時に於ては未だ十分に經濟

上の自由を認めず、各個人は全體の幸福のためにはその欲する所を犠牲に供せざる可らずとの思想一般に行はれ、生産消費のあらゆる關係も亦全般の利益、即萬人の幸福を増進せんとする道義的努力によりて律せられたり。而してこれ等經濟上の關係は法規的に定められ、現今の如き個人の自由自製の範圍に屬せしものにあらず。簡言すれば右の道義的精神により、法規によりて設定せられたる制限は、個人の經濟上の慾望満足を左右するに足りし也。國民經濟時代

に及んで完全なる職業の自由と自由競争とは確乎たる基礎を得、上述せる各種職業の分立は甚だ顯著となり、次第に細密なる分派を見るに至り、生産は分業の發達と勢力及び資本の結合とによりて、大量生産の實を擧げしか、他面に於ては之に應ずるかためその企業を大規模のものとし、或は企業者聯合によりて大なる組織と資本とを擁し、時代の趨向に應ぜんとし、個人的小企業は之れと對立競争すること頗る困難なる狀態に達するに至れり」云々。

かく觀察し來るときは、一國の經濟狀態が家内經濟より都市經濟に進み更に國民經濟に至ることを説ける點に於ては、シエンベルヒもビュッヘルも大差なく、殊にその重要な諸點に至りてはビュッヘルはシエンベルヒに何等加ふる所なきものなるを以て、ブレンゲ氏はこの三階段説の創說者たる榮譽は實にシエンベルヒに歸すべきものなりと論せり。然れども竊て考ふるに両者は同一の三階段説を説けるにもかゝわらず、その三階段區別の標準に至りては必ずしも

相同しからず ビュツヘルが區別の標準となせる「生産者より消費者に至る道程の長短」に付ては、ブレンゲ氏は單に外形的特徴にして必ずしも重要なものにあらずといへるも、余の見所を以てすれば、ビュツヘルは之を以て三階段を區別すへき根本的標準となし、これによりて三階段相互の發展關係を示せるものなるか故に、頗る重要な點なりといはざる可らず。若しこの標準を無視せんか、ビュツヘルの説は全くその生命を失ふに至るへき也。この點につきてはシエンベルヒは生産物の販路を以て、單に生産の動機及目的と考ふるのみにして、未だビュツヘルの如く之を重要視し、之を以て經濟の發達を區別するに足るへき標準とは思惟せざりし也。尙ブレンゲ氏の指摘せる如き經濟事情の變遷の狀態と模型的狀態とを認むることは、經濟發達階段説を説く者の齎しく前提とする所なるを以て、これを以てビュツヘルとシエンベルヒとの類似を説くは、必ずしも必要なることには非る也。又シエンベルヒの論文は中世組合制度

の説明を旨とし、ビュツヘルの説は専ら經濟の發達そのものを解明せんとせる點に於て、兩者の間には大なる差異あることを認むべく、シエンベルヒの説を以て經濟發達階段説として取扱ふかためには、ブレンゲ教授の試みしが如き論說結構の改造を要する所以ならずんは非る也。加之ビュツヘルか多くの經濟上の事實を蒐集し、三階段發達の經路を明にし、之れに十分なる説明を加へたるの點は、何人も否認する能はざる所とす。要するに兩者の説はかのリストの説がアリストートルスに萌芽を發するか如き程度のものにあらずることは明かなりと雖、而もビュツヘルを以てシエンベルヒの説に何等加ふる所なきものとし、殊更にその名を葬らんとするか如きは、當を得たるものにあらず。シエンベルヒの説を修補し、之を敷衍し、之を大成したるの功は、正にビュツヘルに歸すべきものなるを以て、余は寧ろこの説を以て Schönberg-Bichers Theorie として併稱するの適當なるを信するもの也。

5) Sombart, Die gewerbliche Arbeit und ihre Organisation. (Archiv f. soziale Gesetzgebung und Statistik. 1899) S. 371 脚註を見よ。